

# (仮) 第二次文化振興ビジョン

令和2年3月

山口市



市長あいさつ

令和2年3月

山口市長 渡辺 純忠

## 第1章 策定にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○

- 1 本市の文化的背景
- 2 文化政策を取り巻く社会環境
  - (1) 国の動静
  - (2) 県の動静
  - (3) 市の動向
- 3 策定の趣旨
- 4 計画の位置づけと計画期間
  - (1) ビジョンの位置づけ
  - (2) 計画期間
  
- 5 市民意識とこれまでの文化施策
  - (1) 市民意識について
  - (2) これまでの文化施策について

## 第2章 山口における文化施策の基本的方向

- 1 目指すまちの姿
- 2 施策の基本的方向性
  - (1) 西の京に受け継がれた歴史や文化、自然が調和するまち
  - (2) 暮らしの中に息づく、多彩な文化芸術活動がうまれるまち
  - (3) 個性豊かな文化を未来へつなぐ人材が育まれるまち
  - (4) まちや人の個性が輝き、賑わいや交流、新たな価値がうまれるまち

## 第3章 具体的な取り組み

- 1 西の京に受け継がれた歴史や文化、自然が調和するまち
  - (1) 景観や歴史、郷土文化等の保存・継承
  - (2) 魅力あふれる地域資源の活用
  
- 2 暮らしの中に息づく、多彩な文化芸術活動がうまれるまち
  - (1) あらゆる人々に向けた文化芸術活動の環境づくり
  - (2) 暮らしに彩りを添える文化的空間の創出
  
- 3 個性豊かな文化を未来へつなぐ人材が育まれるまち
  - (1) 文化芸術体験機会の充実
  - (2) 文化芸術を担う人材の育成

#### 4 まちや人の個性が輝き、賑わいや交流、新たな価値が生まれるまち

- (1) 個性あふれる文化芸術による価値の創造
- (2) 国内外の交流の促進
- (3) 国内外に向けた情報発信力の強化
- (4) 他分野と連携した好循環・好影響のまちづくりに向けて
- (5) 文化が生み出すその先の価値の創出に向けて

#### 第4章 重点プロジェクト事業

##### (1) 地域の耀きプロジェクト

##### (2) 次世代の芽吹きプロジェクト

###### 1) 次世代を担う人づくり

- ①歴史や伝統を未来へつなぐ人づくり
- ②創造的・専門性の高い人づくり
- ③新進・若手の芸術家の育成

###### 2) 次世代の豊かな暮らしを楽しむ環境づくり

##### (3) ○○○○プロジェクト

#### 第5章 推進にあたって

##### 参考資料

用語説明

委員名簿

策定経過

## 第1章 策定にあたって

### 1 本市の歴史的背景

本市には、緑豊かな山々や美しい清流、カブトガニが生息する穏やかな山口湾、ゲンジボタルが幻想的な世界を魅せる一の坂川、また、中世からの石州街道や萩往還の街道など、県都として、美しい自然と調和した重層的な歴史が今なお残っています。

また、華やかな大内文化や、幕末・明治維新の躍動は、こうした自然を背景に、本市の歴史として刻まれており、今なお新しい文化芸術を創造し続けています。

時代を遡ると、平安時代には阿東地域に蔵目喜などの鉾山が開山されるとともに、古代山陽道沿いに国家の貨幣を造る周防鑄銭司(すおうのじゅぜんじ)が設置され、200年近く操業を続けました。その後、東大寺の再建を任された重源上人が佐波川流域の徳地地域を中心に用材の切り出し(杣(そま)出し)を行うなど、恵まれた資源を生かした開発が進みました。

室町時代、山口を領国の本拠としてまちづくりを行った大内氏は、戦(いくさ)や政(まつりごと)に長けているだけでなく、文化をこよなく愛し、京や大陸の最先端の文化を積極的に取り入れ、後に「大内文化」と呼ばれる独自の文化を育みました。その大内氏をたより、山口を訪れた画僧雪舟や連歌師宗祇をはじめとした文化人や公家、僧侶、さらにはサビエルの宣教活動をも、大内氏は寛容な心で受け入れました。

大内氏の活動範囲は国内に留まらず、明王朝、朝鮮王朝、琉球王国など海外との交流も積極的に進めました。その頃、小郡には領国から届けられる年貢の一部を管理する蔵敷が形成され、経済・交通の要衝となりました。また交易品には得地紙(徳地和紙)など、地産の品も多く用いられました。

大内氏滅亡後、山口は毛利氏の治めるところとなり、江戸時代全般を通じて瀬戸内の小郡、名田島や嘉川地域では開作(新田開発)が進められました。また、阿知須浦をはじめ山口湾における廻船業や、秋穂地域での塩田経営も盛んに行われ、藩財政を支える大きな役割を果たしました。

今からおよそ150年前の幕末、長州藩の攘夷実行に伴い藩庁の所在地となった山口は、明治維新の策源地として、時代の変革を牽引する地となります。そして、廃藩置県により藩庁は県庁へと役割を変え、そのまま山口は県庁所在都市となり、今日に至ります。

このように幾つもの時代を経て、先人が大切に守り、受け継がれてきた伝統や文化は、それぞれの時代の中で、人々の交流や多様な周辺環境との融合により、幾重にも重なり合いながら、より深みを増し、今日まで進化を遂げてきました。

## 2 文化政策を取り巻く社会環境

### (1) 国の動静

#### ○文化芸術基本法 平成 29 年 6 月改正

文化芸術そのものの振興に加え、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業など幅広い関連分野の施策を新たに法律の範囲に取り込むとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造につなげていくことの重要性が明らかにされました。法律の名称も「文化芸術振興基本法」から「文化芸術基本法」に改められました。

#### ○文化芸術推進基本計画（第 1 期） 平成 30 年 3 月 閣議決定

今後 5 年間の文化芸術政策の基本的な方向性として、6 つの戦略が定められました。

- ① 文化芸術の創造・発展・継承と豊かな文化芸術教育の充実
- ② 文化芸術に対する効果的な投資とイノベーションの実現
- ③ 国際文化交流・協力の推進と文化芸術を通じた相互理解・国家ブランディングへの貢献
- ④ 多様な価値観の形成と包摂的環境の推進による社会的価値の醸成
- ⑤ 多様で高い能力を有する専門的人材の確保・育成
- ⑥ 地域の連携・協働を推進するプラットフォームの形成

#### ○障害者による文化芸術活動の推進に関する法律 平成 30 年 6 月施行

障がいのある人の、文化芸術活動の幅広い促進を目的とした法律が定められました。

#### ○文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律 平成 30 年 6 月改正

文化行政全体としての一体性やまちづくり等に関する事務との関連性を考慮し、教育委員会が所管する文化財保護の事務を、条例により地方公共団体の長が担当できるようになりました。

#### ○東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催 令和 2 年度

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会は、日本の文化や魅力を世界に示し、文化芸術を通じて世界に大きく貢献するまたとない機会であることから、「日本博」をはじめとする文化プログラム等の活用により、国と全国の自治体、芸術家が携の連携し、地域文化を体験等に係る取組が全国各地で展開されることとなりました。

## (2) 県の動静

### ○第二次やまぐち文化芸術振興プラン（第2次）平成30年11月改定

「多様な連携のもと、未来につなぐ やまぐちの文化力」を基本目標に、観光等の関連分野、民間等の関連機関との多様な連携の推進や、連携が生み出す力を、交流人口の拡大、文化力のさらなる充実・発展に活用し、山口県の文化芸術を次世代に継承することが謳われています。

## (3) 市の動向

### ○「第二次山口市総合計画」 平成30年3月策定

「豊かな暮らし 交流と創造のまち 山口～これが私のふるさとだ～」を将来都市像に掲げ、広大な市域を有する本市の自然や歴史、文化、産業、まち、人材などの地域資源の多様性を本市の豊かさや発展の源として、これらを生かしていくまちづくりを進めます。また本市の都市拠点や地域拠点当の構築を図り、多様な個性を有する各地域が主体的に連携、交流し、更なる価値創造や経済循環を図る対流型のまちづくりを進め、本市全体の発展を実現していくまちづくりの方向性を明確にしました。

### ○山口県央博覧会「山口ゆめ回廊博覧会」の開催

令和3年

山口ゆめ回廊博覧会は、山口県央連携都市圏域（山口市、宇部市、萩市、防府市、美祢市、山陽小野田市、島根県津和野町）の各市町に主会場を置き、圏域の美しい伝統・文化や自然などを幅広くアートとして捉え、周遊を促進するオープンエリア型の博覧会として開催するものです。博覧会を令和3年（2021年）7月から12月に、プレ博覧会を令和2年（2020年）7月から12月に開催する予定で、大都市圏や、福岡・広島などの近隣都市圏をターゲットとするとともに、今後の訪日外国人旅行者の増加も見据えた取組推進を図ります。





### 3 策定の趣旨

本市においては、平成21年3月に「文化の薫るまち 創造ビジョン(以下、前ビジョン)」を策定しました。策定から10年が経過する中、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。わが国の社会経済は、成熟化・情報化社会から、第4次産業革命と言われるI・TやAIを活用した超情報化社会へと変遷しています。また、人口減少・超高齢社会の到来により、文化芸術の分野に限らず、担い手不足や人間関係の希薄化等が深刻化しています。

こうした中、地域資源を戦略的に活用し、地域の特色に応じた優れた取組を展開することで、交流人口の増加や定住の促進によりまちに新たな息吹をもたらす取組が求められています。人と人をつなぎ、豊かな人間性や創造力を育む文化芸術面からのアプローチとして、地域固有の文化資源を生かした創造的な活動により、新たな価値や文化、産業の創出に寄与し、市民の暮らしの質や豊かさを高める「創造都市」の取組が国内外で注目されています。

本市においては、平成21年3月に前ビジョンを策定しました。豊かな自然や長い歴史に育まれた文化、また、自然と調和したまちなみやまちの景観など、山口にしかない魅力を生かし、本市の価値を向上させる上での重要な要素である文化を育み、文化性あふれるまちづくりの取組を振り返るとともに、こうした近年の文化芸術を取り巻く環境の変化に、より迅速に対応することを目的として、本ビジョンを策定するものです。

## 4 ビジョンの位置づけと計画期間

### (1) ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、第二次山口市総合計画を上位計画とし、第二次山口市総合計画に示す将来都市像「豊かな暮らし 交流と創造のまち山口 ～これが私のふるさとだ～」の実現に向け、市民、各種団体及び行政の役割分担を明確にするとともに、文化政策と他の関連政策を包括的に推進していく上での諸施策の指針として策定するものです。

### (2) 計画期間

令和9年度(2027年)を目標年次とし、令和2年度から令和9年度までを8か年を計画の推進期間とします。

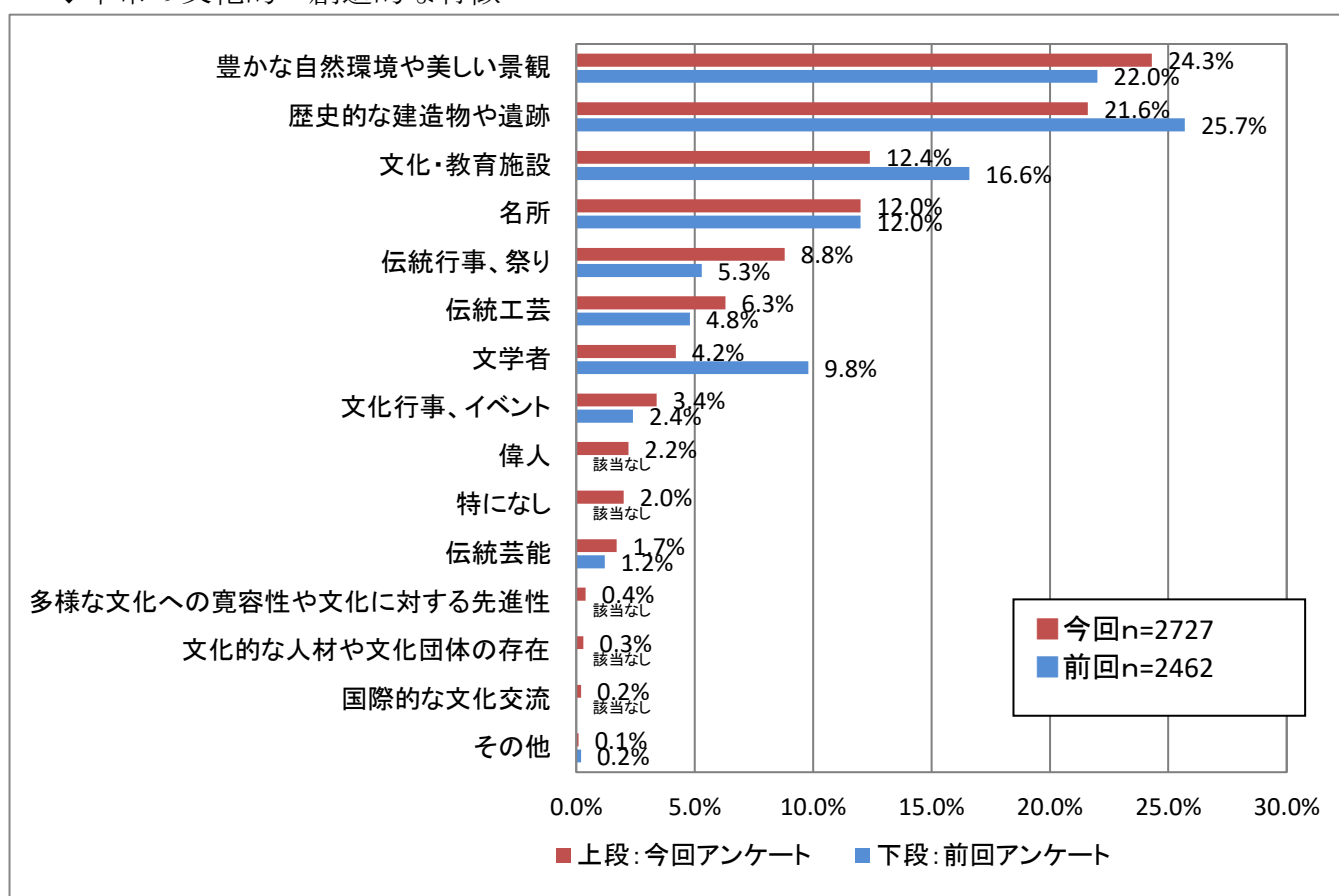
## 5 市民意識とこれまでの文化政策

### (1) 市民意識について

本ビジョンの策定にあたり、文化に対する市民意識を把握し、本市の文化政策推進の基礎資料とするため、アンケートを実施しました。

また、前ビジョンにおいて、実施したアンケート（平20年度に実施）と同一の質問項目については、調査結果を対比し記載しています。

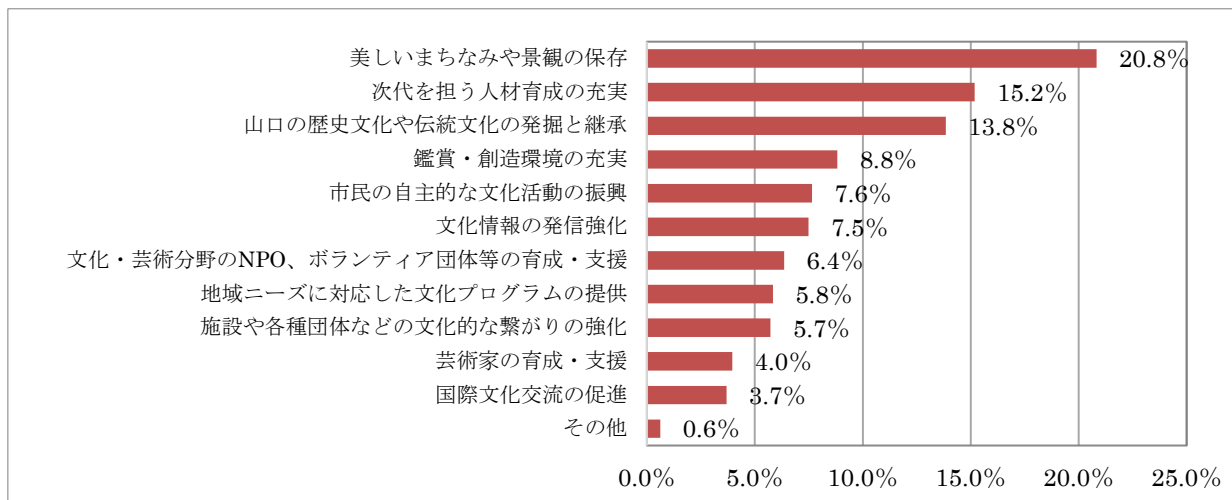
#### ◆本市の文化的・創造的な特徴



(H29 文化に関するアンケート調査 複数回答3つまで 回答件数 2,727 件)

「豊かな自然環境や美しい景観」という回答が一番多く、次いで「歴史的な建造物や遺跡」「文化・教育施設」となっています。前回アンケートでも同様に「歴史的な建造物や遺跡」「豊かな自然環境や美しい景観」「文化・教育施設」の3つが上位を占めています。

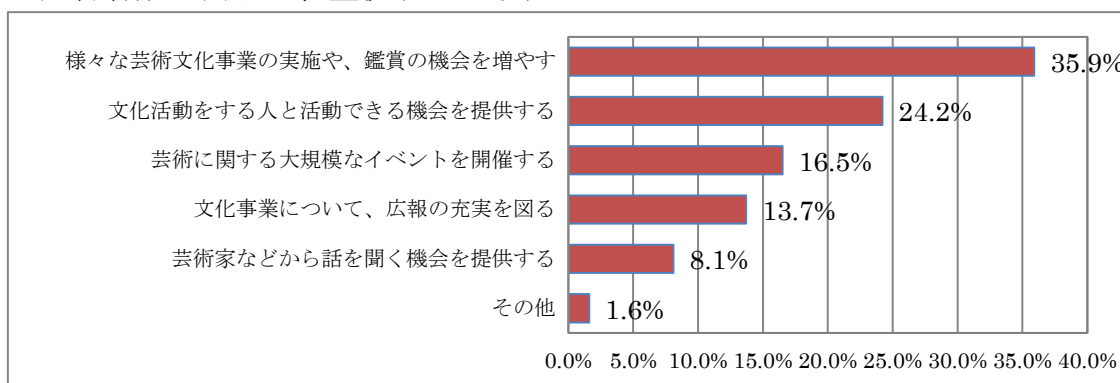
◆文化的・創造的なまちづくりを更に進めるために重視すべき取組



(H29 文化に関するアンケート調査 複数回答3つまで 回答件数 2,550 件)

「美しいまちなみや景観の保存」が一番多く、次いで、「次代を担う人材育成の充実」「山口の歴史文化や伝統文化の発掘と継承」と続いています。

◆人材育成に向けて、重視すべき取組



(H29 文化に関するアンケート調査 複数回答2つまで 回答件数 1,804 件)

「様々な芸術文化事業の実施や、鑑賞の機会を増やす」が一番多く、次いで、「文化活動をする人と活動できる機会を提供する」「芸術に関する大規模なイベントを開催する」の順となっています。

## (2) これまでの文化施策について

本市は、前ビジョンにおいて、「～歴史の中に息づく国際性豊かな創造文化都市 やまぐち～」の実現に向け、次の5つの基本的方向性のもと、その実現に向けて取り組みました。

- (1) 自然に恵まれた心豊かな美しいまちをめざして
- (2) 歴史、伝統文化が息づくまちをめざして
- (3) 芸術を創造するしなやかで包容力のあるまちをめざして
- (4) 魅力あふれる文化を発信する活力あるまちをめざして
- (5) 文化がつなぐ産業と交流のまちをめざして

また、具体化に向けて、次の9つの基本的な取組を推進しました。

### ① 文化的景観の保全・形成

美しい景観の形成、水辺空間の創出、町屋の再生・活用、公園・緑地の整備など、文化的景観の保全・形成に取り組みました。

#### ◆主な取り組み

- ・ 文化的景観の保全・形成
- ・ 水辺空間の創出  
(一の坂川交通交流広場の整備など)
- ・ 公園・緑地の整備  
(亀山公園山頂広場の整備)
- ・ 天然記念物の保護 (ゲンジボタルの保護など)
- ・ まちなみの一体性の強化  
(町屋の再生・活用など)



亀山公園山頂広場の整備

#### ◆課題

- ・ 少子高齢化等を要因としたまちの空洞化が進む中、歴史的なまちなみの保存・継承について、地域と一体となり検討を進めていく必要があります。
- ・ 市民の景観意識の醸成を図り、美しい自然や歴史的なまちなみを次代へ引き継いでいく必要があります。

## ② 歴史、伝統の保存・継承

文化財の保存整備や郷土の歴史を学ぶ機会の提供、市史「史料編」（全 8 巻）やガイドブックの刊行など、地域の歴史文化資源の掘り起こしと情報発信に取り組みました。

### ◆主な取り組み

- ・郷土の歴史を学ぶ機会の充実（講演会やまち歩き等の開催）
- ・伝統文化にふれる機会の充実（三産地連携事業）
- ・郷土研究の推進（市史「史料編」の刊行、幕末維新ガイドブックの刊行等）
- ・文化財の保存・整備と活用（史跡大内氏館遺跡、名田島新開作南蛮樋等の整備など）
- ・未指定文化財の調査（洞春寺文書等の調査、常栄寺美術工芸品調査など）
- ・郷土芸能・伝統文化の伝承・支援（山口鷺流狂言、徳地人形浄瑠璃、地福のトイトイ、鷺の舞など）
- ・伝統工芸の振興（産地が抱える課題解決に向けた取り組み）



▲地福のトイトイ（阿東）

### ◆課題

- ・文化財の積極的な活用や歴史文化資源の保存・継承に向けたデータベース化を進めていく必要があります。
- ・郷土芸能などの地域の歴史文化資源を後世に引き継ぐため、子どものころから、地域の文化に地域住民が触れることで、守り、生かしていく仕組みづくりが必要となっています。
- ・伝統工芸については、売上の減少や担い手の高齢化、後継者不足により、事業者数が減少していることから、中長期的な視点を持って、市民が伝統工芸に触れる機会を創出し、愛着を育み、日常的に使用することで、地域の伝統工芸の衰退防止、後継者の育成につなげていく必要があります。

### ③ 市民文化活動の充実と支援

質の高い文化芸術に触れる機会の提供や鑑賞・参加機会の充実、市民の自主的な文化活動・生涯学習活動の推進や支援、各地域の文化協会などに対する活動支援などに取り組みました。



山口市市民文化祭

#### ◆主な取り組み

- ・鑑賞・参加、発表機会の充実（市民文化祭、市美術展覧会の開催など）
- ・市民の自主的な文化活動の推進、支援（市民文化活動支援事業）
- ・質の高い芸術文化に触れる機会の提供
- ・文化団体の育成、支援
- ・文化活動における生涯学習の推進（地域交流センターにおける生涯学習活動の推進、市民大学講座、文化講演会の実施）

#### ◆課題

- ・高齢化に伴い文化団体の会員数は減少傾向にあるため、新たな会員確保に向け、文化芸術に興味を持つ市民の裾野を広げ、その活動を活性化していく取組が必要です。
- ・文化施設では設備等の老朽化が進んでいることから、適正な整備・維持管理に努めていく必要があります。
- ・文化芸術鑑賞や文化芸術活動については、参加者や鑑賞者に地域の偏りがあります。市内の皆さんが「参加しやすい」「鑑賞しやすい」仕掛けづくりが必要です。
- ・子どもや高齢者、障がいのある人など、あらゆる人々が文化芸術に触れることのできる環境づくりが必要です。

### ④ 次代を担うひとづくり

芸術創造活動の推進・支援、児童・生徒等への芸術教育の充実、アーティストの発掘・育成支援、教育機関等との連携、美術館・博物館・図書館・歴史資料館等と連携した教育普及に取り組みました。

◆主な取り組み

- ・子どもたちへの舞台芸術の鑑賞機会の提供、ワークショップの実施
- ・児童、生徒等への芸術教育の充実（ぼうしの詩人賞ほか）
- ・アーティストの発掘、育成支援（芸術家育成支援事業）
- ・教育機関等と連携したアウトリーチ活動（未来の山口の授業ほか）
- ・美術館、博物館、図書館、歴史資料館等と連携した教育普及
- ・全国大会に出場する児童・生徒への支援（文化芸術振興賞賜金の交付等）



▲空の下の朗読会（中原中也記念館）

◆課題

- ・教育機関や美術館・博物館・図書館等がさらに連携し、効果的に事業を実施していく必要があります。
- ・コミュニケーション能力や多様な文化を受け入れる力など、国際化に対応した人材育成に取り組んでいく必要があります。

### ⑤新しい芸術文化の創造

本市固有の地域資源と新しい表現手法や技術を活用したオリジナル作品の制作などの創造活動を展開することにより、国内外のアーティストや研究者、団体間のネットワークの構築などに取り組みました。



▲山口文化協会 40周年記念創作公演「悠心に重ね見る季節」

◆主な取り組み

- ・新しい芸術文化創造活動の場づくり、環境整備
- ・メディアを活用した芸術文化の創造
- ・異分野・異文化との融合による新たな芸術文化の創造
- ・オリジナル作品の制作

◆課題

- ・先端の技術や、その他領域への応用に係る、継続的な検証や効果的に事業を実施していく体制づくりが必要です。
- ・さらなる市民文化の創造に向けて、市民会館をはじめとした市民の創作活動

の拠点の充実を進めていく必要があります。

- ・新しい芸術表現を試みる創造的作品については、市民の理解を深めるための分かりやすい広報活動が必要です。

## ⑥ 世界に向けた魅力ある情報の発信

文化情報と観光情報の連動による情報発信、ホームページの充実による発信力の強化、アート作品の海外巡回などに取り組みました。



▲山口七夕ちょうちんまつり

### ◆主な取り組み

- ・市や文化施設のホームページ、SNS、観光情報サイト等の活用と案内サイン等の多言語化による情報発信力の強化
- ・留学生へのインバウンド観光大使任命による本市固有文化の母国語での情報発信
- ・アート作品の海外展覧会や国際フェスティバル等における巡回展示

### ◆課題

- ・急増するインバウンド等に向けての情報発信は重要であることから、引き続き、WEBや案内サイン等の多言語化を進める必要があります。
- ・観光や移住・定住など他分野と連携した効果的かつ戦略的な情報発信方策を検討していく必要があります。

## ⑦ 国内外の交流の推進とネットワークづくり

海外の姉妹・友好都市等との文化交流に取り組むとともに、「創造都市ネットワーク日本」や、「雪舟サミット」、「東大寺建立にかかわった自治体サミット（東大寺サミット）」などの都市間交流に取り組みました。山口情報芸術センター（以下、「YCAM」）による、民間研究所等との共同開発や教育普及事業コンテンツの外部施設での共同展開など、研究機関や企業との連携強化に取り組みました。



◆主な取り組み

- ・姉妹・友好都市等との文化交流の推進
- ・大内文化の“進取の気風”を生かした交流の促進（日本のクリスマスは山口から等）
- ・国内外の文化施設、企業、アーティスト等との連携、協力（コロガル公園など）
- ・アーティストと市民の交流の場づくり（芸術家育成支援事業）
- ・人材ネットワークの構築（やまぐち路傍塾）
- ・雪舟サミット、東大寺サミットによる関係自治体間の連携
- ・観光面と一体的な交流の促進



▲第15回雪舟サミット（島根県益田市）

◆課題

- ・市民レベルの国際交流を進め、相互の信頼をより強固なものにしていく必要があります。
- ・国内外の自治体等とのネットワーク構築にかかる取組を戦略的に進めていく必要があります。
- ・市内のアーティストの活動を市民が育み、アーティストが市民の創造活動を支援する仕組みの構築が必要です。

## ⑧ 文化資源を生かした魅力ある地域づくりの推進

地域資源の掘り起こしや活用による多様な文化交流事業の展開や、文化施設における地域、人物に関連する展示・研究活動を通じて、地域の人が誇りに思える地域づくり、まちづくりの促進に取り組みました。

◆主な取り組み

- ・大内文化の“進取の気風”を生かしたまちづくり（山口ゆらめき回廊、大殿ひなさんぽ等）
- ・文化遺産を生かしたまちづくり（「萩往還」や「肥中街道」など歴史の道の整備と活用、岸見の石風呂の活用など）
- ・郷土ゆかりの文学者、文化人を生かしたまちづくり（嘉村礒多生家「帰郷庵」の整備、中原中也を



▲嘉村礒多生家「帰郷庵」の整備・活用

- テーマとした交流事業、郷土文学者の顕彰など)
- ・アートと地域をつなぐ事業の推進  
(山口市菜香亭市民ギャラリー、廻船のまちアートギャラリーなど)
  - ・地域資源の発掘と再評価 (明治維新 150 年に向けた地域資源の掘り起こしと活用、お大師まいるの発展に向けたプロジェクト)



▲十朋亭維新館の整備・活用

◆課題

- ・地域文化を牽引する人材の育成や、まちの個性を生かした賑わいの創出、交流人口の拡大につながる取り組みを進めていく必要があります。
- ・本市を代表する貴重な歴史文化である大内文化を、より分かりやすく市内外へ伝える取り組みが必要です。

## ⑨新たな芸術文化の創造による新産業の創出

新たな芸術文化の創造による新産業の創出に向けて、産・学・官の相互連携や新しい芸術表現の研究などに取り組みました。



▲バンブーバイク (左)

◆主な取り組み

- ・YCAM InterLab の研究開発などによる産学官の相互連携
- ・「バンブーバイク」の制作などによる新しい芸術表現の研究

◆課題

- ・これまで蓄積してきた国内外のネットワーク及び研究成果を活用し、新産業の創出に向けた具体的な取り組みが必要です。
- ・近年では、経済産業省が「デザイン経営」宣言を発表するなど、デザイン思考やアート思考を産業や事業の創出に結びつけるよう提言がなされています。今後は、芸術文化の創造とビジネス人材の育成を結び付けるなど新たなイノベーション創出への支援が必要です。

## 第2章 山口市における文化施策の基本的方向

### 1 目指すまちの姿



# 個が<sup>かがや</sup>耀き 次世代が芽吹く 創造文化都市やまぐち

## ～その先の文化と暮らしを育むまち～

時代は今、超情報化社会への突入や働き方の多様化などの暮らしの変革期を迎え、人々のライフスタイルへの価値観が変わる中で、健康や精神的な豊かさなど生活の質を大切にしている人々が増えています。

また、これまで経験したことのない速さで少子高齢化やAI化やロボット化が進む中で、本市の歴史や文化芸術に新たな息吹を吹き込み、人材や文化、暮らしなど、次の世代を育みながら、未来へつないでいくことが重要です。

本市が光り耀くには、市民が暮らしに息づいた歴史や文化、自然の素晴らしさに気づき、学ぶことを通して、まちに誇りと愛着を持ち、地域資源の磨き上げと人材を育みながら、個の魅力を高める必要があります。

また、本市に暮らす人々の暮らしの質や豊かさを高めていくことや、テクノロジー時代の潮流に乗りながらも、豊かな自然や歴史、文化が調和するまちの中で、人が中心の文化的で潤いのある暮らしを育むまちづくりを進めていく必要があります。

本ビジョンにおいては、先人から受け継いだ歴史や伝統、そして美しい景観を確実に未来に紡ぐとともに、美しい自然の中で、心の豊かさを育む文化的な営みによる新たな価値とライフスタイルを創造し、文化の持つ創造性を、本市の様々な課題解決に向けて生かしていくことにより、次の世代に誇れるまちの姿をカタチにしていきます。

本ビジョンの目指すまちの姿である「個が耀き 次世代が芽吹く 創造文化都市やまぐち ～その先の文化と暮らしを育むまち～」については下記のとおり整理しています。

### 個が耀き

- 1) 市民や地域の耀きを生み出す場の創出、活動支援に取り組みます。
- 2) 市民やアーティストなどが交流し、人々が耀くまちづくりを進めます。
- 3) 本市の個性溢れる文化を守り、育てるとともに、新たな芸術表現などを創造します。(歴史・文化、自然、景観、YCAM、中原中也、大内文化等)

### 次世代が芽吹く

- 1) 本市の長い歴史の中で受け継がれた郷土芸能や伝統文化の後継者、本市の個性溢れる文化など本市の文化的価値を支える人、担う人を育成します。
- 2) AI時代における新しい文化的な暮らしを創造します。
- 3) 多様な交流の中で育まれた次世代の文化や文化的価値を創造します

### 次世代のイメージ

- 1) 人材：本市固有の文化を次世代につなぐ人  
文化を支える人  
専門的な人  
創造力豊かな人  
国際性豊かな人
- 2) ライフスタイル：文化を楽しむ暮らし、新しい価値による暮らし方
- 3) 文化や価値の創造：多様な交流の中で育まれた新しい文化や価値

### 創造文化都市やまぐち

文化芸術の持つ創造性を地域振興、観光・産業振興等に領域横断的に活用し、地域課題の解決に向けた取り組みや、好循環・好影響のまちづくりを進めます。

### ～その先の文化と暮らしを育むまち～

少子高齢化時代の中で、テクノロジーと豊かな自然、歴史・文化が調和し、多様な交流が生まれるまちの中で、先端の文化と人が中心の文化的な潤いに満ちた豊かな暮らしを育みます。

### その先の文化と暮らしのイメージ

- 1) AI化やロボット化の進展により変わる少し先の未来
- 2) 先端テクノロジーと自然、歴史、文化がある潤いに満ちた暮らし
- 3) 人生のセカンドステージにおける潤いのある豊かな暮らし

## 2 施策の基本的方向性

### (1) 西の京に受け継がれた歴史や文化、自然が調和するまち

本市は、積み重ねてきた歴史や文化、そして美しいまちなみが、四季折々の自然と調和する美しいまちです。海や山、川などの美しい自然や、大切に受け継がれてきた歴史や伝統を背景とした新たな出会いと交流の中で、人々がつながり、祭りや伝統行事などの郷土文化を創造し、まちの個性として、今日まで大切に継承してきました。

時を重ねても、故郷の自然やまちなみ、祭りや郷土芸能の風景は、音や、まちの香りとともに、人々の記憶の中に刻み込まれています。

先人が守り続けた美しい自然や景観、地域に点在する文化財、地域資源や歴史資源の保存・活用を促進し、さらに資源の価値や地域の魅力を高めながら、地域の誇りの醸成、歴史や文化、自然が調和するまちづくりを進めます。



▲国宝瑠璃光寺五重塔

## (2) 暮らしの中に息づく、多彩な文化芸術活動がうまれるまち

成長社会から成熟社会への転換や人生 100 年時代を見据え、人々は「物質的な豊かさ」から「精神的な豊かさ」を求め、文化的景観や空間の創出など、文化的な暮らしを育む環境づくりが求められています。

本市には、華道や茶道などの生活文化をはじめ、大内塗や山口萩焼などの伝統工芸や外郎などの食文化が、人々の暮らしの中に溶け込み、今日まで受け継がれてきました。これらの暮らしの文化や市内のアーティストが創り出す文化芸術を、日々の生活の中に取り入れ、生かすことは、暮らしにやすらぎや癒しを与えるとともに、地場産業の振興や今後のインバウンド需要の取り込みにおいても重要な意味を持っています。

これらの暮らしの中に息づいた文化の活用を進めていくとともに、地域の文化施設や文化団体、教育機関等との連携や交流、協働を促進するため、子どもから高齢者まで、幅広い世代や障がいを持つ人、子育て世代など、あらゆる人々の身近な学習機会や創作活動の場の充実を図り、多彩な文化芸術活動がうまれるまちづくりを目指します。



▲玄関を彩る生け花

### (3) 個性豊かな文化を未来へつなぐ人材が育まれるまち

かつて長州藩では、多くの若者に教育の門戸を広げたことにより、幕末や明治維新において、強い志とエネルギーを持った次代を牽引する優秀な人材を輩出するとともに、教育の重要性を自ら学んだ維新の志士たちが教育の担い手となり、次代の日本を牽引する人材を輩出していく教育の好循環を生み出しました。

本市においては、文化施設や学校、地域等が互いに連携し、あらゆる人々が身近に文化芸術活動に触れ、学び、考える環境を整備し、市民の成長段階に応じた遊びや学びの活動を行う中で、新たに生み出される表現や学びを促進し、次代の文化芸術を担う創造力豊かな感性と地域への愛着や誇りの醸成、A I時代に対応した人材を育てていきます。また、市民がアーティストの文化芸術活動を支え、アーティストの文化芸術活動が市民の創造力を育む流れを構築し、文化芸術による好循環・好影響を生み出すまちづくりを目指します。



▲芸術家育成支援事業で実施したワークショップ

#### (4) まちや人の個性が輝き、賑わいや交流、新たな価値がうまれるまち

成熟社会において、人々が健康で文化的な質の高い暮らしを願う中、文化による創造性を観光やまちづくり、産業、教育など他分野へ活用することが期待されています。

グローバル社会の中にあつて、文化が有する創造性は、インバウンドによる賑わいや交流の創出や、移住・定住などの地域の活性化につながるポテンシャルを有していることから、本市の個性をさらに磨き上げ、新たな価値を創造することはもちろん、国内外の都市や大学、研究機関、企業等との交流の促進や情報発信の強化等により、まちの魅力とブランド力を高める取組を進めます。

また、文化芸術を基軸とした施設や他分野との横断的・多面的な取り組みや国内外との広域的な交流を通じ、人材やビジネスの誘引、賑わいやイノベーションの創出など、新しい価値がうまれる活気あるまちを目指します。

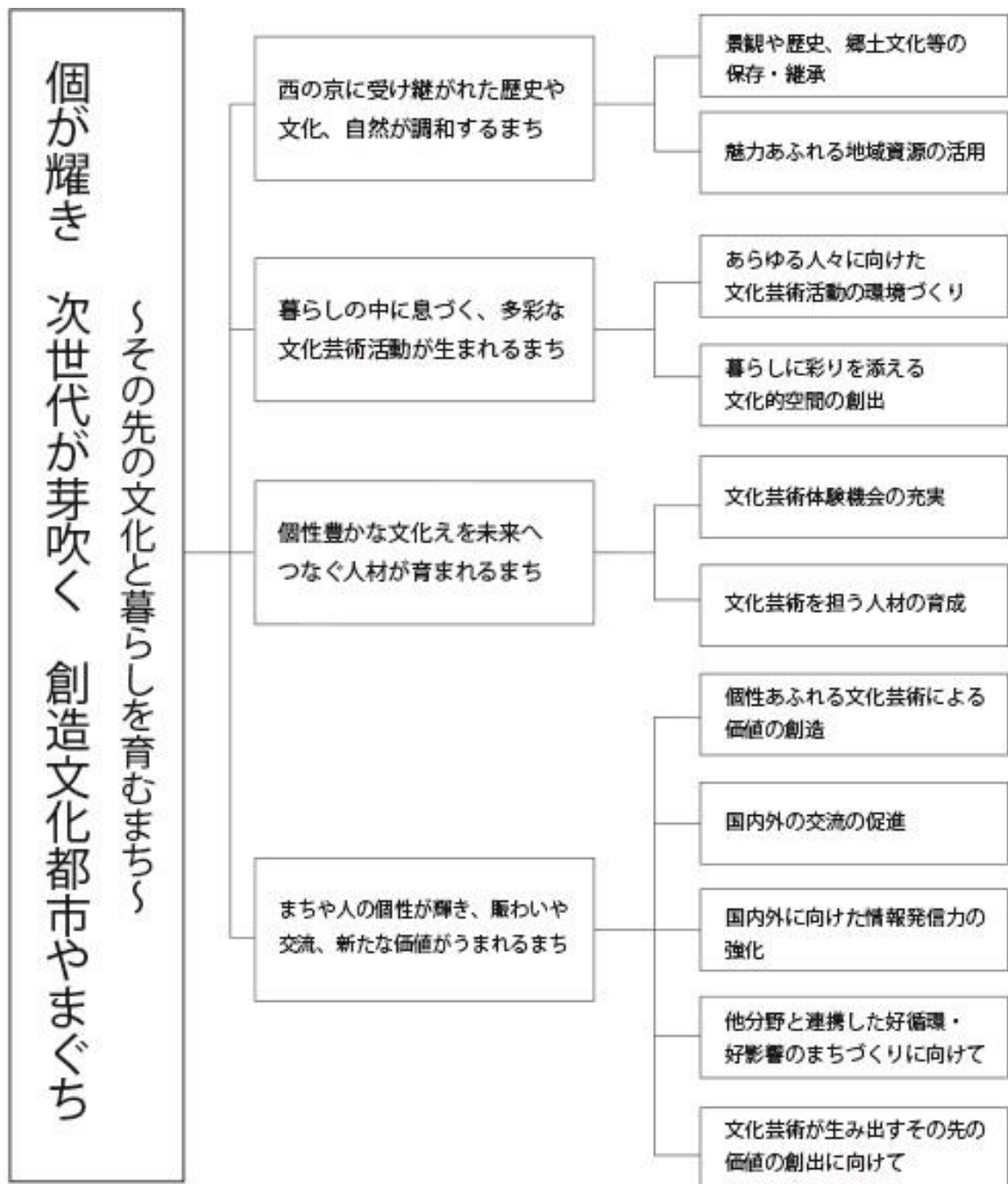


▲着物でイベントを盛り上げる仕掛けづくり



### 第3章 具体的な取り組み

本章では、前章 2 で示した 4 つの施策の基本的方向性を具体化するための取り組みについて示します。



## 1 西の京に受け継がれた歴史や文化、自然が調和するまち

### (1) 景観や歴史、郷土文化等の保存・継承

長い年月を経て、脈々と受け継がれた美しい景観や重層的な歴史、郷土文化を一人一人が大切に育み、次の世代に継承していきます。

- 自然景観、歴史的景観の保全・形成
- 文化財の把握と保存・活用
- 郷土芸能や伝統芸能、方言の継承
- 歴史や郷土文化を学ぶ機会の充実



▲日本ジオパークに指定された阿東地域



▲常徳寺庭園の保存整備事業



▲風水探訪会

## (2) 魅力あふれる地域資源の活用

本市の個性あふれる歴史や文化をはじめとした地域資源の掘り起こしを進めるとともに、観光や地域づくりへの積極的な活用を図ります。

- 地域の文化や特色を生かした地域づくりの推進
- 文化財等のデータベース化や活用の促進
- 地域資源・歴史資源の掘り起こしと活用
- 郷土研究の推進



▲長沢池での巨大な砂絵づくり(铸銭司)



▲常栄寺雪舟庭のライトアップ



▲山口市の金石文と山口市史「資料編」

## 2 暮らしの中に息づく、多彩な文化芸術活動がうまれるまちづくり

### (1) あらゆる人々に向けた文化芸術活動の環境づくり

文化関連施設の環境整備や大学や関係機関、地域、団体等との連携・協働を進めるとともに、子どもから高齢者、障がいをもつ人や子育て世代など、あらゆる人々の文化芸術活動や学習機会の充実を図り、多様な価値観や創造性を育くむ取組を進めていきます。

- 市民の自主的な文化活動の促進
- 文化活動の発表の場の提供
- 文化団体の育成と活動支援
- あらゆる人が文化につながる場づくり
- 高齢者、障がいのある人、子育て世代等の文化芸術活動の充実
- 文化芸術や歴史資源を生かした市民の主体的な地域づくり活動の促進
- 県立美術館、博物館、大学、図書館等と連携した学習機会の充実
- 山口市民会館の再整備をはじめとする文化施設の効果的・効率的な運営と環境整備
- 山口市産業交流拠点施設の文化面での活用



▲ブックスタート事業

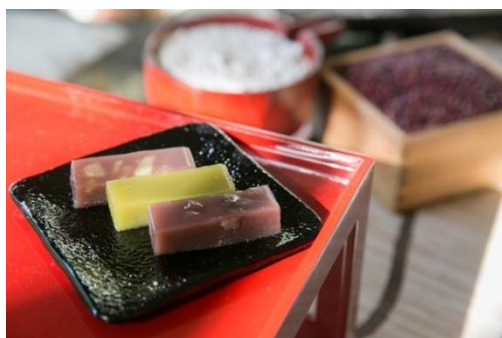
## (2) 暮らしに彩りを添える文化的空間の創出

身近に文化のある暮らしは、人々の生活をより豊かにします。都市空間や公共施設、家庭など日々の暮らしの中に文化芸術を取り入れ、文化的で潤いのあるまちづくりを進めることにより、市民一人一人の生活の質の向上や心の豊かさ、まちの魅力を高めていきます。

- 生活文化や食文化など暮らしの文化の振興
- 伝統工芸品やアート作品の活用促進
- 公共施設における文化的空間の創出
- 県立文化施設等と連携したパークロードエリアの活用
- 景観に配慮したまちづくり



▲緑あふれる空間を演出する新山口駅南北自由通路



▲山口外郎



▲現代のライフスタイルにあわせた大内人形「Ouchi 夫婦」

### 3 個性豊かな文化を未来へつなぐ人材が育まれるまち

#### (1) 文化芸術体験機会の充実

本市には、生活に身近な地域や学校、地域交流センターから、美術館・博物館や文学館・資料館、さらには、最先端のアートセンターまで多様な学びと鑑賞の場があります。

これらの場や地域資源を活用し、子どもたちから、多様な文化芸術に触れる機会を充実させることにより、家庭や学校、地域の中で一人一人の感性や創造力を育んでいきます。

- 鑑賞・参加・体験機会の充実
- 質の高い文化芸術に触れる機会の提供
- 図書館と連携した文学や歴史に親しむ機会の提供
- 教育委員会等と連携したアウトリーチ活動の充実
- 文化活動における生涯学習の推進



▲チェンバロコンサート (C・S赤れんが)



▲菜香亭コンサート

## (2) 文化芸術を担う人材の育成

本市の個性的な文化芸術を未来へつないでいくには、専門性の高い人材をはじめ、文化芸術活動を支える人材や、本市の歴史や伝統を確実に後世へつないでいく人材の育成が必要です。

本市は、大学や各種専門学校など複数の高等教育機関との連携を図りながら、人材育成に取り組んできました。

今後においても引き続き、市民や大学、企業、文化施設等がそれぞれの立場において、その役割を果たし、知識や技術の習得の場や、専門性が発揮できる環境の整備を進め、地域全体で人を育み、A I時代に対応した創造性あふれる人材や歴史や伝統を未来へつなぐ取り組みを着実に進めていきます。

- 新しい技術に対応したリテラシー（読解記述力）教育の促進
- 文化芸術を支える専門的人材や文化ボランティアの育成
- アーティストの育成支援、活動の場づくり
- 次世代を担う人材を育成する教育プログラムの制作・提供
- 伝統工芸の後継者育成



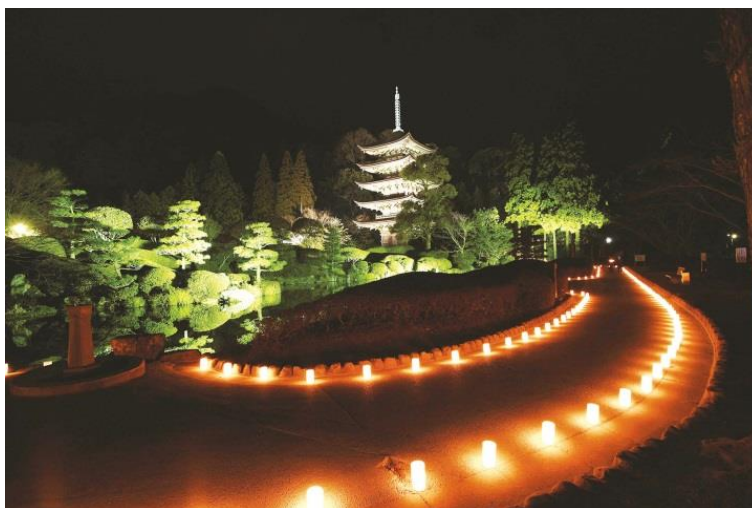
▲森のDNA図鑑(YCAM)

## 4 まちや人の個性が輝き、賑わいや交流、新たな価値がうまれるまち

### (1) 個性あふれる文化芸術による価値の創造

本市の個性的な文化芸術を、市民や地域、関係機関や団体等とともに、様々な取組の中で新しい価値を創造し、まちの魅力を高めていくことで、まちの賑わいや交流を創出し、市民の誇りとまちの価値を高めていきます。

- 大内文化をはじめとする重層的な歴史文化を生かしたまちづくり
- YCAMの創造性を生かしたまちづくり
- 郷土ゆかりの文学者、文化人を生かしたまちづくり



▲山口ゆらめき回廊



▲中原中也賞贈呈式



## (2) 国内外の交流の促進

歴史や文化等で関わりの深い国内外の都市との交流を促進し、連携や関係を深めることは、本市の国際化を進める中で重要な取組です。今後においては、「人の交流」はもとより「経済的な交流」も視野に入れ、さらなる、まちの発展に向けた取組を進めます。

- 歴史文化等をつながる関係自治体や創造都市との交流
- 大内文化を生かした交流の促進
- 姉妹友好都市等との文化交流の促進
- グローバル化に対応した多文化共生の取り組み



▲大内氏の国際性に着想した「大内ナイト」

### (3) 国内外に向けた情報発信力の強化

本市の歴史文化資源や文学の魅力、世界的評価が高いアート作品などを通じて、個性的な文化芸術の情報発信力を強化していくことにより、市民の文化芸術に対する誇りや愛着を育むとともに、まちのブランド力を高めていきます。

- 市民へ向けたわかりやすい情報の発信
- メディアやSNS等を活用した戦略的な情報発信
- 文化施設や文化財情報、ウェブサイト等の多言語化の促進
- 収蔵物や過去作品のデジタルアーカイブ化による活用促進
- アート作品の巡回



▲海外への情報発信を担う留学生を活用した観光インバウンド大使

#### (4) 他分野と連携した好循環・好影響のまちづくりに向けて

文化芸術の創造性を観光や経済、まちづくりなど他分野や地域課題の解決に活用し、新たな価値や需要が創出されることにより、持続的な文化の発展と経済成長に繋がる好循環・好影響のまちづくりに向けた取組みが求められています。

中長期的な視点に立った、各分野との横断的・多面的な取り組みや、本市が保有する地域資源や人材、地場産品に付加価値を加えることで、まちに新たな人の流れや賑わいと交流を創出し、地域経済の活性化や地域課題の解決につなげていきます。

- 健康で文化的な生活に向けての応用
- 観光産業と連携したアートツーリズムの推進
- 文化的景観や文化財等のユニークベニユアの活用
- 商店街と連携した賑わいの創出
- 地場産業のブランディングの促進
- 文化的環境を活用した移住・定住の促進



▲野田神社で開催した「LIFE-WELL」インスタレーション（YCAM）

## (5) 文化芸術が生み出す価値の創出に向けて

本市は、常に時代の先を見据え、実験的・創造的な芸術表現を追求し、国内外に向け、発信し続けることで、新たな価値や、国内外からのアーティストや企業、関係機関との交流を生み出し、本市のブランド力の向上につなげてきました。

今後は、新たな技術や未来の課題を踏まえた次世代の文化芸術の境地を引き続き開拓するとともに、これまで培った国内外の大学や企業、研究者等とのネットワークや人材交流による多様な連携・協業を進め、文化芸術を基軸としたイノベーション創出への貢献や人材育成を進め、さらなるまちの価値の向上につなげていきます。

- 国内外の大学、企業、関係機関、アーティスト等との連携、協業
- 創造コンテンツや研究成果によるビジネスの誘引
- 人材育成によるイノベーション創出や起業創業誘引への貢献
- 文化芸術の価値を創造し続ける環境づくり



▲スポーツハッカソン for Kids (YCAM)

## 第4章 重点プロジェクト事業

前章では、本計画で目指すまちの姿「個が耀き 次世代が芽吹く 創造文化都市やまぐち ～その先の文化と暮らしを育むまち～」を実現するため、具体的な4つの基本的方向性のもと取り組みを進めることといたしました。

その上で、本章では、本計画期間中で重点的かつ戦略的に取り組む3つのプロジェクト事業を包括的に示します。

### (1) 地域の耀きプロジェクト

本市を構成する各地域は、都市部、海浜部から中山間地域まで広範囲に渡っています。私たちは、この多様な自然と環境のもとで、長い年月をかけて先人たちが育んできた歴史と伝統を受け継いでいます。

各地域に暮らす私たちにとって、ごく当たり前の何気ない風景や人の温かさ、そして、その中で育まれた歴史や伝統、文化こそが、かけがえのない地域の個性であり、本市の財産です。

本プロジェクト事業では、この大切な財産にさらなる“ミガキ”をかけ、その一つ一つを“まちの個性として耀かせることで、そこに暮らす人々の誇りや愛着を育むとともに、地域の個性やそれを担う人々が耀きながら、地域の様々な資源がつながることで、本市全体の文化力の向上につなげていきます。





## (2) 次世代の芽吹きプロジェクト

現代は、少子高齢化や第4次産業革命といわれる時代の変革期を迎える中で、歴史や文化芸術に新たな息吹を吹き込み、次の世代を育みながら、未来へとつないでいくことが重要となっています。

このため、本市においては、重点的な取り組みとして、中長期的な視点から、地域や文化団体、関係機関等と連携し、『次世代』を育む人づくりや環境づくりに取り組みます。

### 1) 次世代を担う人づくり

#### ①歴史や伝統を未来へつなぐ人づくり

少子高齢化が進む中、本市においても郷土芸能の担い手や伝統文化の後継者育成が喫緊の課題となっていることを踏まえ、子どものころから、地域の歴史や祭り、また本市の個性的な文化芸術に触れ、感性や創造性とともに地域への愛着や誇りを育む取り組みや、文化の担い手や地域の歴史文化を守り育てていく人材の育成を、市民や地域、学校などがそれぞれの役割を持ち、本市全体で推進していきます。

特に、無形文化財や伝統工芸などは、次世代に本市の歴史文化を伝える上で、重要な地域資源です。まずは、市民がその価値を知り、鑑賞や体験、保存に際して、対価を支払うことで活動を支え、持続的な次世代への継承に向けた取り組みを進めていくことが重要であることから、本市に受け継がれた無形文化財や伝統工芸等の価値を市民に周知する機会を提供するとともに、大学や関係機関等と連携し、情報発信や後継者の育成につながる取り組みを進めていきます。



▲山口驚流狂言保存会

## ②次世代を担う想像力豊かな人づくり

室町時代、国内にとどまらず東アジア世界との交流を積極的に進めた領主の大内氏が、雪舟をはじめとした文化人や多様な文化を受け入れ、大内文化を花開かせたように、本市には教育や文化芸術に対して、寛容な心と新たな文化や人を育む風土が受け継がれています。

こうした流れを受け継いで、YCAMが平成15年の開館以降取り組んできた実験的・創造的な取組は、市民の創造性や文化的な思考、専門性を高めています。また、世界が注目する最先端のアートや創造的なワークショップは、子どもたちにとって、暮らしの中のごく当たり前の風景として息づいています。

本市では今後も、テクノロジーが次々と生み出される中で、技術開発力や応用可能性への研究力を高め、教育現場や地域との連携、さらには世界との交流を進め、未来を担う子どもたちの柔軟な発想や想像力を育む取り組みを進めるとともに、イノベーション創出に貢献できる創造的・専門性の高い人材の育成を図ります。



▲コロガル公園 commons (YCAM)

## ③新進・若手の芸術家の育成

本市は、芸術家を育成支援する取り組みの中で、「やまぐち新進アーティスト大賞」を平成19年に創設し、才能ある新進アーティストを発掘し、創作活動の奨励や展覧会の開催を通じて、育成支援を図ってきました。多様な領域の受賞者は、受賞をきっかけに知名度を向上させ、国内外に活躍の幅を広げています。

今後も、こうした取り組みを継続することで市内のアーティストの活動支援につとめるとともに、アーティストバンクの設置やネットワークの構築を図ることで、持続的な創造活動の場づくりやアーティストの才能や創造性が発揮される仕組みづくりを進めます。



▲やまぐち新進アーティスト大賞 10年展



## 2) 次世代の豊かな暮らしを楽しむ環境づくり

本市には、長い歴史と豊かな自然に培われた文化が暮らしの中に脈々と受け継がれています。その暮らしは、わが国の経済の発展とともに、多様なライフスタイルを生み出し、暮らしの質にも変化をもたらしているものの、市民の暮らしを豊かなものとして継続していくためには、日々の暮らしの中に文化的価値が定着し、市民の意識の中に本市独自の文化性がしっかりと根付いていくことが必要です。

自然志向や健康的な生活に対する関心が高まる中で、市民の文化的な暮らしを将来にわたって実現していくためには、日々の生活や文化芸術に触れる機会を通して、四季折々の風景の美しさや芸術などの文化的価値に気づき、その価値に心が満たされる感性を育むことが重要です。

このため、本市では、市民が日々の暮らしの中で、喜びや感動を覚える文化的素養を育むため、子どもから大人までのあらゆる世代において、音楽、文学、絵画、彫刻、工芸はもとより、メディアや科学技術に至るまでの幅広い分野における文化芸術活動に触れることのできる機会の創出を図り、市民の感性が自然な形で生まれ、本市の個性として定着していくまちづくりを進めます。

また、緑豊かな街路や公園、歴史的景観や文化的な公共空間、山口市民会館をはじめとする市民文化創造の場や学びの場の環境整備を進め、そこで暮らす人々が文化芸術と出会い、様々な創造活動を生み出し続けることにより、文化芸術と暮らしが融合したライフスタイルの創造に取り組みます。

### (3) 賑わい創出に向けた文化的価値の向上プロジェクト

本市は、歴史や文化を背景とした景観や文化財、文化施設などの地域資源、また緑豊かな文化的空間を保有しており、その文化的価値を観光交流におけるコンテンツとして、情報発信し、賑わいと交流の創出につとめてきました。

これに加え、YCAMを中心とした創造的な取組や人材育成を通じて、国際的なシンポジウムの開催や専門的なワークショップの開催など、本市の新しい価値や個性を創造することで、世界を魅了し、国内外の大学や企業、関係機関とのネットワークを構築し、新たな人の流れを創出し本市の価値を高めてきました。

また、令和3年、山口市産業交流拠点施設の交流機能として設置される多目的ホールのオープンにより、新山口駅を起点としたさらなる文化交流の拡大が期待されています。

こうした中、本市の文化的価値をコンテンツとして、賑わいと交流の拡大につなげていくためには、ターゲット層を明確としたコンテンツづくりを進めるなど個を磨き、それぞれがつながることで、文化的価値を高めていく必要があります。

そのため、本プロジェクトにおいては、ユニークベニューをはじめとする回遊促進に向けた歴史的建造物や文化財、緑あふれる公園などの文化的空間の新しい活用を提案するなど、個々の地域資源等に磨きをかけるとともに、その特性や立地環境を生かしながら、周辺施設や地域資源と一体となった魅力の創出を進め、多様なコンテンツを組み合わせることにより、面的な広がりや文化的魅力のさらなる向上及び情報発信に取り組み、本市が誇る個性を国内外へ戦略的に印象づけ、賑わいと交流の拡大につなげていきます。



▲洞春寺で開催された琴鼓n管コンサート。

# 賑わい創出に向けた文化的価値の向上プロジェクト



## 第5章 推進にあたって

### ◎推進にあたっての考え方（方向性）

#### ○「文化芸術基本法」にみられる文化対象の幅広さ⇒

- ・行政だけではなく、市民や文化活動の担い手（人や団体）を中心とした多様な主体が協働、連携する重要性が増加
- ・市の施策における総合的な視点に基づく問題意識の共有、問題解決に向けた取組の重要性が増加
- ・文化施策と他の関連施策の包括的な推進

### ◎推進の主体

- ・本市の主人公である市民
- ・交流と賑わいを創出する21地域
- ・文化芸術を生み出す文化芸術活動の担い手（人や団体）
- ・その先の担い手を育む教育機関
- ・文化施策を先導する文化施設
- ・あらゆる主体の文化活動を側面的に支援する行政

### ◎推進主体の考え方の方向性

- ・行政は先導する時代から、促進・支援する時代へ
  - ・市民や文化活動の担い手を中心の時代へ
- ⇒市民、地域、関係機関、行政の役割分担を明確化